

「コミュニケーションロボットの教育の場での活用」
（実習の進捗発表（ジュニア（大学1～3年生），新規発表））

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-08-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 網干, 茉優, 井村, 翔, 池田, 祐夢 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00028308

「コミュニケーションロボットの教育での活用」

網干茉優（静岡大学情報学部行動情報学科），
井村翔（静岡大学情報学部情報科学科），
池田祐夢（静岡大学情報学部情報社会学科）

近年，コミュニケーションを目的としたロボットが開発され，老人ホーム等さまざまな場で利用されるようになった．私たちは教育の場でのコミュニケーションロボット（CR）の使い方に興味を持ち，学校で生徒と関わる CR の効果的な活用方法について文献を調査した．

Kai-Yi Chin ら（2014）は，初等教育において教育用ロボットを用いた学習システムが生徒の学習パフォーマンスとモチベーションにどのような影響を与えるかを調べた．結果，教育用ロボットは生徒の注目と関心を引き付け，学習意欲を向上させることが分かった．

その他にも，CR の特徴としてジェスチャーなどによって授業の内容を豊かにすることが挙げられる．現段階では学習支援型の教育用ロボットの研究が多くなされている等の理由から，10 年後教育の場では TA として CR が活用されると予測される．

<関連実習科目>

PBL 演習